



豊玉二中だより

令和4年度 第4号
発行日 7月12日(火)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

『ミライの授業』～未来に生きる子どもたち～

副校長 木原 賢三

1学期も残りわずかとなり、いよいよ夏休みを迎えます。まだまだコロナ感染症が収束しない中、迎えた1学期でしたが、その中で一人一人の生徒が「自分の責任を果たし、協力し合うことを学び」確実に成長することができた1学期でした。特に60周年記念運動会では、3年生にとって最後の自分たちの運動会を成功させるために、練習から受け身の姿勢ではなく、生徒が主体的に取り組み、一人一人が「今、何をしなければならないのか」を考えて取り組んできました。その成果で、一人一人が大きな達成感を感じることができる大成功の運動会となりました。3年生の姿は1・2年生の模範となったとともに、「誇れる上級生 学ぶ下級生」の豊二中の伝統を引き継ぎ、新しい歴史の第一歩を踏み出す運動会とすることができました。改めて、豊二中生の素晴らしさを実感しました。

さて、令和3年度より学習指導要領が改められ、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」だけでなく、「何が出来るようになるのか」という生徒に育む資質・能力が示され、学習指導が行われるようになりました。変化の激しい予測不可能な社会において、受け身で対応するのではなく、生徒自ら興味・関心を高め、主体的な学びを深めていくことが必要だからです。そのためには、「何を学ぶのか」という教育の内容を重視しつつ、社会でも活用できる生きて働く資質・能力の育成を目指すことが必要になってきています。そこで、「何を学ぶのか」を考える重要な視座を与えてくれるのが瀧本哲史さんが著した『ミライの授業』です。著書の中で、中学生が未来の創り手として重要な役割を担うと伝えます。そして、現在の先に未来があるわけではない、未来は自分たちで創るもの、未来はつくることのできるのだから未来をつくる人になろうと語りかけます。著書の中で「未来をつくる5つの法則」を伝えています。その中身は次の通りです。

法則1：「変革の旅は『違和感』からはじまる」 法則2：「冒険には『地図』が必要だ」

法則3：「一行の『ルール』が世界を変える」 法則4：「全ての冒険には『影の主演』がいる」

法則5：「ミライは『逆風』の向こうにある」。

そして、19人の偉人たちのエピソードと、彼らから力をもらい、自分自身が20人目の偉人となり、未来を創ろうと呼びかけます。

本校では、「自分探し」すなわち、生徒が一人一人の良さを発揮し、自己有用感を感じさせながら、自分らしく生きるとはどのような生き方なのかについて、3年間の教育活動において探求させ、自らの生き方を自己決定し、夢の実現に向けてたくましく生きる生徒の育成を目指しています。ぜひ、今年の夏休みには、生徒が自ら目標を立てて、自分を成長させるために様々な体験をさせてください。中学校での一冊の本の出会いが新しい世界を知り、人生を変える体験となるかもしれません。これまで知らなかった未知の体験をすることは自分の視野を広げ、新たな未来を創っていくことにつながるはずです。コロナ禍で変化が激しく予測不可能な時代ですが、こんな時だからこそ、規則正しい生活を心がけ、自分の土台となる力を夏休みでつけていきましょう。夏休み明けには心身ともに鍛えられて、一段とたくましくなっている皆さんと会えることを楽しみにしています。1学期、保護者および地域の皆さまには、本校の教育活動にご理解とご協力ありがとうございました。2学期もよろしくお願いいたします。